



# 分科会名と主な話し合いの内容



| 分科会名 |                | 主なテーマ   |
|------|----------------|---|
| 1    | 日本語教育          | ○作文・言語活動(教育)・文学作品・音談を柱として実践。<br>○主な課題 ・言語の教育をどう進めていくか ・子どもたちの自己規制をどう解放していくか ・系統性の問題<br>・震災、原発事故を福島の課題として  |
| 2    | 外国語教育          | ○小学校での外国語活動が、「イコール英語」の活動にならないような取り組み<br>○英語に特化することのない「外国語活動」<br>(ALT、地域、外国に行ったことのある教職員、視聴覚教材の活用(DVD、インターネット))<br>○平和教育との関連の強化   |
| 3    | 社会科教育          | ○「原発後の現状を、どう社会科の授業で取り上げるか」<br>・原発を中心とし、それを授業化する取り組み ・歴史、労働実態、地域振興、産業支配、放射線<br>・地域の教材化(放射性物質に汚染された中でどんな取り組みがなされているか) ・「地産地消」の問題<br>・農業・工業・観光に関しての視点 ・さまざまな情報が出される中で自ら判断する力を身につけるために<br>・人権、差別の問題                     |
| 4    | 算数・数学教育        | ○量感を大切に指す(長さ、広さ→速さ) ・教えこみではなく、実体験の中で、数を量的にとらえる。<br>○絵や図の活用<br>○論理的説明  |
| 5    | 理科教育           | ○リスクマネジメントとしての放射線教育はどうあるべきか。<br>・子どもたちが自ら判断し、汚染の中で正しい根拠ある認識を持って健康で安全に生きる理科教育を考える。<br>・科学的根拠に基づき、新しい福島に生き、復興再生のために必要な「知識」と「学び」を身につける理科授業のあり方を考える。<br>・理科教育の実践を通し、教師集団に働きかけ、学校教育全体の中で、放射線教育を意識した教科、特別活動、学校行事のあり方を考える。 |
| 6    | 美術教育           | ○時間をかけて行う題材の重要性 ・質的に高いものをめざし、それらを一本の柱となるような実践。<br>○心を取り戻す美術教育。子どものための授業を目指して。<br>○作品の仕上がりではなく、その過程と、そこで、子どもたちが何を感じ取ったか、どう成長したか。   |
| 7    | 音楽教育           | ○全国教研の討議の柱 ・音楽会 ・言語活動 ・授業の工夫と音楽教育のもつ役割 ・創作<br>○実践の視点として ・音楽で子どもをどう育てていくか。 ・教材を、どうとらえていくのか。 ・音楽の持つ教育的役割  |
| 8    | 家庭科教育          | ○生活主体を育てる(①生活をつくる ②生活を深める ③生活を拓く ④多様な連携)<br>・技能を習得する機会の設定 ・技能をくり返し練習する場の保障 ・授業のめあての明確化  |
| 9    | 保健             | ○震災を受けて、今後養護教員としてどんな取り組みをしていくか。   |
|      | 体育             | ○原発関連をテーマに、子どもや学校の現状と、それに対しどんな教育をしているか。<br>○子どもの将来にわたっての健康・体力の維持増進。   |
| 10   | 技術・職業教育        | ○JWCADの教材研<br>○LEDを使用した教材の開発  |
| 11   | 自治的諸活動と生活指導    | ○「原発事故後の子どもの様子と学校の関わり」 ・差別の問題 ・不応の問題 ・避難してきた子どもたちの現状<br>○震災後の子どもの心のケアをどのように行うか。<br>○子どもの権利条約に基づく実践を、子どもの意見をもとにどう反映させるか。   |
| 12   | 幼年期の教育と保育問題    | ○課題<br>・幼・小の立場の在り方 ・幼稚園で育ててきたことを小学校でどう扱っていくか、そして、のばしていけるか。<br>・保護者同士のつながり<br>○課題にせまるために<br>・教師同士の接続交流―考えの違いを出し合える環境づくり ・幼・小の交流から見える、本当の「ねらい」<br>・障がい児教育での交流活動   |
| 13   | 人権教育           | ○「原発」「放射線」のテーマを中心に、「人権」の課題について考える。  |
| 14   | 障がい児教育         | ○合理的配慮の考え方を明確にもち、インクルーシブ教育へ向けて実践する。 ・授業づくり ・クラスづくり ・学校づくり<br>○震災による子どもたちへの影響、及び個々のニーズに応じた実践 ・どんな支援や対応をしたか ・福祉との連携   |
| 15   | 国際連帯と平和教育      | ○震災、原発事故の現状をふまえ、ゆたかな世界と地球規模でものを考える教育をどう創造するか。<br>○きびしい状況の中で、平和教育を、どのようにして、組織的、計画的、継続的に取り組んでいくか。<br>・主体性、独創性を、どう発揮していくか。 ・3・11以降の世界についての発信(避難している子どもたちの文集作成)<br>・「きびしい状況」下での平和教育―私たちが「フクシマ」から学ぶ。                     |
| 16   | 両性の自立と平等をめざす教育 | ○第3次男女平等参画基本計画を学習し、組織的に運動を生かす。<br>○震災、原発事故の実態を記録に残し、後世に伝える。<br>○ジェンダー平等の意識や運動を職場や保護者に意図的に知らせる。<br>○正しい知識を与え、自ら考え正しく情報を理解・判断し、行動できる力を身につけるカリキュラムづくりを行う。  |
| 17A  | 環境・公害          | ○除染とその問題点   |
| 17B  | 食教育            | ○放射線教育  |
| 19   | 情報化社会と教育・文化活動  | ○震災や放射線と関連させた情報教育、文化活動について  |
| 20   | 高等教育・選抜制度と進路保障 | ○高校の実態 ・サテライト校の状況<br>○相双地区の中学校の進路指導の状況<br>○高校入試 ・制度の見直し ・募集定員 ・統廃合<br>○キャリア教育 ・職場体験など   |
| 21   | 教育課程づくりと評価     | ○前次全国教研から ・被災地の現状 ・高校の実践 ・学力テスト ・絆プロジェクト ・モジュール ・支援のあり方   |
| 22   | 地域における教育改革とPTA | ○民主的な学校づくり ○PTAと地域との連携 ○学校統合 ○震災、原発事故1年後の現状と課題  |
| 23   | 教育条件整備の運動      | ○課題 ・予算の問題(交付税の分析、教育財政を軸とした自治体全体の予算) ・就学援助の問題(各自治体の設定基準) ・町づくり<br>○課題にせまるために<br>・福島県における問題(低所得世帯の増加、児童生徒の流出、被災者援助などの特例措置の廃止)<br>・保護者負担の軽減の取り組み  |
| 24   | 総合学習           | ○討議の柱立<br>・原発事故の影響と総合学習 ・豊かな体験と表現活動 ・子どもから発する総合学習 ・地域に学び、地域に返す活動<br>・地域素材の開発 ・生活科との関連 ・地域や人に愛着の持てる子どもの育成 ・発展途上国の人々との共生  |